

水 振 協 ニ ュ ー ス

平成 23 年度号

編集・発行 (財) 滋賀県水産振興協会 (tel 077-568-3451)

草津市志那町 1393-2

ニゴロブナが「よく獲れる」、ホンモロコも以前に比べると獲れるようになってきたという話が聞こえるようになってきました。漁業資源はまだ不十分ではありますが、当協会はいくらからも安定した漁業が行えるよう放流事業を続けていきます。

さて、本年度は夏の猛暑でニゴロブナの餌喰いが悪く、栽培漁業センターでの生産が不調でニゴロブナ大型稚魚の目標を5万尾ほど下回りましたが、その他はほぼ順調に推移し、目標を達成することができました。各漁業組合、水産試験場には養成、放流、標識調査にご協力いただき、ありがとうございました。放流尾数は下の表のとおりです。

区分		尾数
ニゴロブナ	2cm 稚魚	1,333 万尾
	21g 稚魚	97 万尾
ホンモロコ	ふ化仔魚 1～2cm 稚魚	1.2 億尾 433 万尾
アユ	流下仔魚	19 億尾
ワタカ	5cm 稚魚	45 万尾

ニゴロブナ

2cm 稚魚は水田育成が 1,190 万尾、栽培漁業センター、北山田地先筏が 143 万尾でした。体重 21g の大型稚魚 55 万尾を栽培漁業センター、31 万尾を北山田地先筏で生産し、滋賀県漁連から体重 24g の大型稚魚 11 万尾を購入し、放流しました。この他に、滋賀県漁連では大型稚魚 30 万尾を放流しています。

水田育成 主に沿湖漁業組合のご協力により実施し、15 漁協、512 反の水田にふ化仔魚 2,053 万尾を放流し、2～3cm 稚魚 1,190 万尾が琵琶湖に流下しました。水田からの稚魚の流下率（流下尾数／放養尾数）は 58%でした。

放流効果 協会では稚魚放流の効果を知るために、標識調査を行っています。

平成 23 年の冬、小糸、沖曳で漁獲されたニゴロブナを調査しています。今年（平成 23 年度）の冬季の混獲率は調査中ですが、平成 23 年 2～3 月の混獲率（漁獲魚に占める放流魚の割合）は 75%でした。平成 22 年度とほぼ同じ結果でした。放流は大きな事業効果があることがわかっています。一方、春から夏の産卵期に岸で漁獲されるニゴロブナの標識調査では、

混獲率は天然魚が約 5 割、放流魚は約 5 割の半々でした。これも、昨年度とほぼ同じ結果でした。

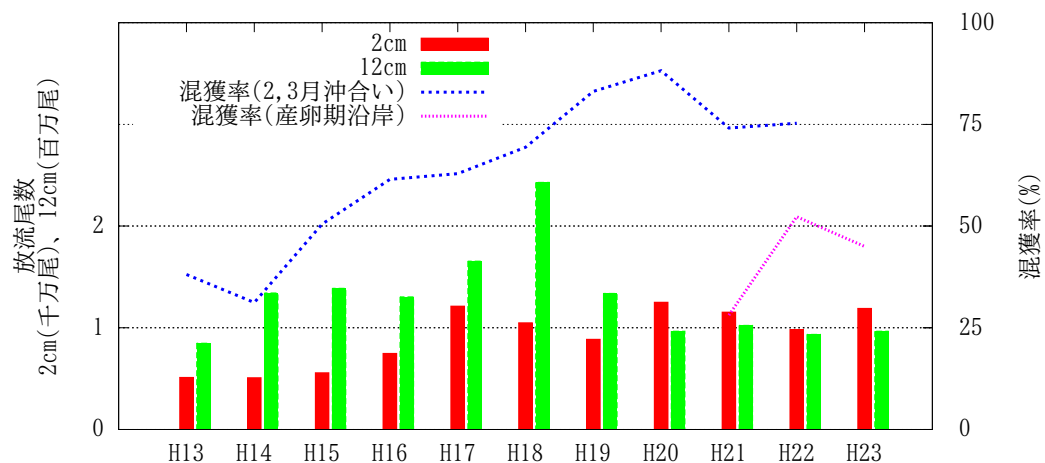
天然資源の少ない状況は続いています。水産試験場の調査では、平成 22 年生まれのニゴロブナは例年より多いようです。平成 23 年も、4、5 月に近江八幡市牧地先、長浜市海老江地先、高島市新旭町地先などのヨシ帯には卵や稚魚が多く見られました。また、今年は 5 月に大雨で出水があり、琵琶湖周辺で多くの水田が冠水しました。数日後、多くの仔魚が水田の中で確認されました。天然のフナなどが遡上し、放流していない水田にも産卵したようです。今後が楽しみです。



水田で成長するニゴロブナ



ニゴロブナ大型稚魚の放流



ニゴロブナの放流尾数と混獲率

ホンモロコ

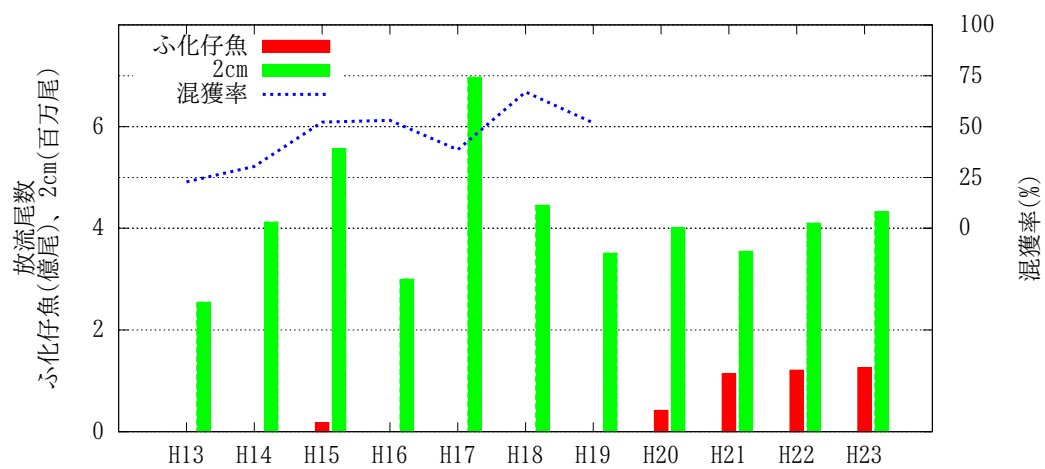
平成 20 年からふ化仔魚の放流を始めています。栽培漁業センター、北山田地先筏の親魚から採卵し、高島市新旭町、安曇川町の湖岸に卵を輸送、網に入れ、ふ化まで保護し、ふ化仔魚数で 1 億 2 千万尾を放流しました。下の写真の青色の網の中に卵が入っています。また、草津市北山田地先筏で 1～2cm 稚魚 433 万尾を生産し、放流し、西の湖近くの水田にふ化仔魚 208 万尾を放流しました。



ホンモロコ飼育作業



ホンモロコ卵の放流



ホンモロコの放流尾数と混獲率

アユ

安曇川人工河川、姉川人工河川を8月30日から10月9日まで稼働させ、アユ親魚を11.6トン放流し、産卵させ、ふ化仔魚を自然流下させました。琵琶湖への流下仔魚数は19億尾でした。



アユ人工河川への放流

ワタカ

栽培漁業センターでワタカ 5cm 稚魚 45 万尾を生産し、南湖に放流しました。

琵琶湖南部を中心に標識調査を行い、その結果、琵琶湖のワタカのうち放流魚は 89% を占めているとわかりました。



ワタカ稚魚の放流



ワタカの標識調査

(財) 滋賀県水産振興協会では、漁獲量のアンケート調査をしています。大事な調査ですので、ご協力よろしくお願いします。